

令和5年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

道維-5 道路改築事業
市道堂坂線
(舟志工区)

事業主体 対馬市

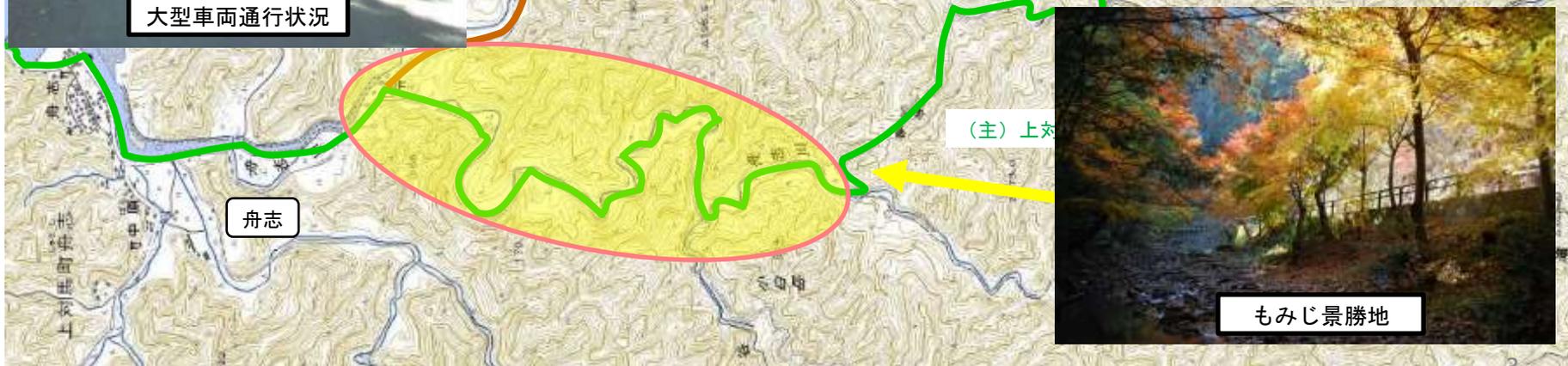
再評価
の理由 再評価後5年経過



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初 (H25新規)		H25	R4	50.0	1.06	延長L=2.1km 幅員L=5.5(7.0)m 改良L=1.13km 舗装L=1.13km トンネルL=0.97km
第1回審議 (H30)	事業採択後 5年経過	H25	R9	70.0	1.17	延長L=4.13km 幅員L=5.5(7.0)m 改良L=2.58km 舗装L=2.58km トンネルL=1.55km
第2回審議 (R5 : 今回)	再評価後 5年経過	H25	R9	70.0	1.52	延長L=4.13km 幅員L=5.5(7.0)m 改良L=2.58km 舗装L=2.58km トンネルL=1.55km

2. 事業の目的・必要性



3. 事業概要・効果

【延長】 L=4.13km W=5.5 (7.0) m

【事業費】 70億円

【事業期間】 H25~R9

【改良区間】

【バイパスによる所要時間の短縮】

- ・ 県道 (15.8分) に対し 9.6分の短縮
- ・ 市道 (12.0分) に対し 5.8分の短縮

市道堂坂線 事業区間

計画延長 L=4.13km W=5.5 (7.0) m

トンネル L=1.55km

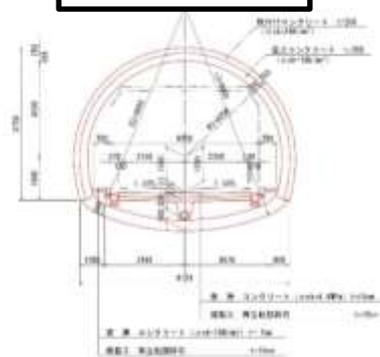
終点

市道堂坂線

起点

(主) 上対馬豊玉線

トンネル標準断面図



4. 事業の進捗状況



5. 社会経済情勢等の変化

前回再評価(H30)

社名	定員	比田勝港		便数/日	
		釜山 - 比田勝	比田勝 - 博多	平日	土日
JR九州高速船 (BT)	191名	釜山 - 比田勝	博多 - 比田勝	2便	4便
		1時間10分	2時間10分		
スターライン (NINA)	430名	釜山 - 比田勝		1便	2便
		1時間30分			
未来高速 (KB5)	200名	釜山 - 比田勝		1便	2便
		1時間10分			
大垂高速 (OF)	445名	釜山 - 比田勝		1便	2便
		1時間10分			
HAN-IL (AR)	319名	釜山 - 比田勝		1便	2便
		1時間40分			
計	平日			平日	土日
	1776名	3552名		6便	12便

※最大約2,000人/日が入国

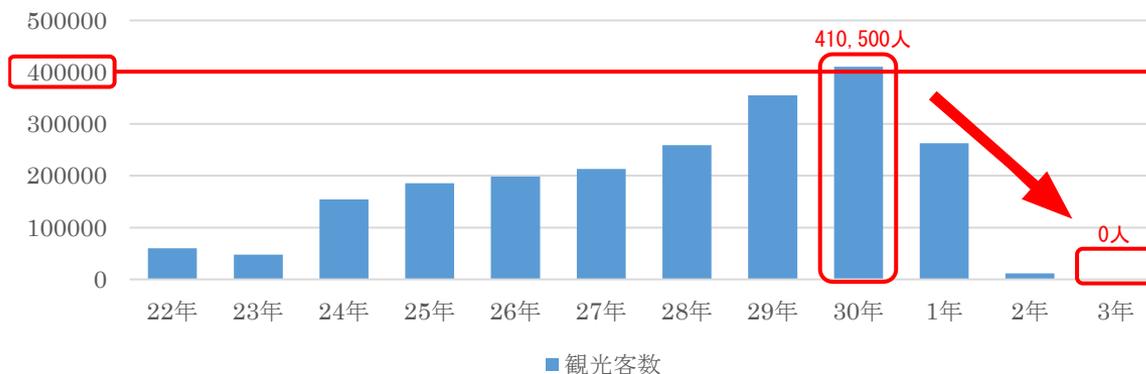
今回再評価(R5)

【新型コロナの影響を受け国際航路がすべて運休となり0名】

令和5年2月末より運行再開(定員制限)

社名	定員	比田勝港		便数/日	
		釜山 - 比田勝	比田勝 - 博多	平日	土日
サンスターライン (PTL)	100名	釜山 - 比田勝			2便
		1時間10分			
スターライン (NINA)	100名	釜山 - 比田勝		平日	2便
		1時間30分			
計	平日			平日	土日
	0名	1710名		0便	4便

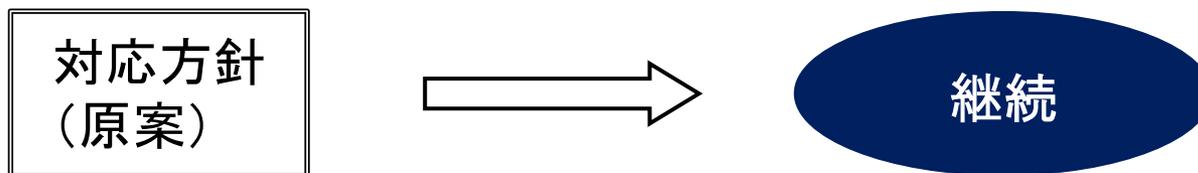
海外からの観光客数の推移



運航再開

6. 対応方針(原案)

◆政府の水際対策緩和により、航路の新規参入や増便により以前のような便数が予想されることから観光客の増加に伴う交通量の増加が見込まれるため、当路線の早急な整備が求められている。



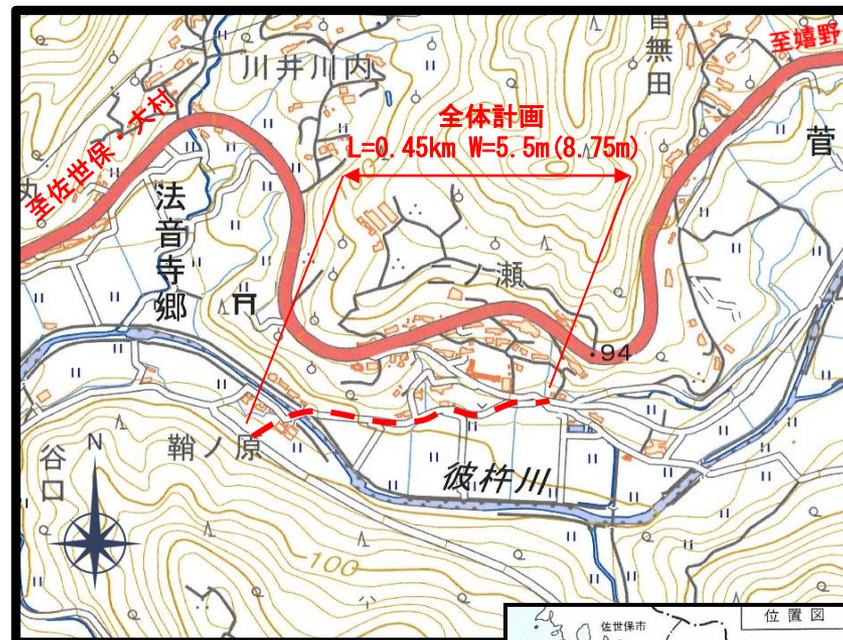
令和5年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

道維-6 道路改築事業
1級町道中尾本線
(菅無田工区)

事業主体 東彼杵町

再評価
の理由 事業採択後10年経過



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初 (H25新規)	—	H26	H30	2.5	1.29	【工事概要】 延長0.45km 幅員5.5(8.75)m
第1回審議 (R3)	事業採択後 10年経過	H26	R9	3.6	1.18	【工事概要】 延長0.45km 幅員5.5(8.75)m

2. 目的・事業概要・これまでの経緯

◆目的

本路線は本町の中心部と菅無田・中尾・太ノ原地区を結ぶ主要な幹線道路であり、町営バスの運行路線でもあるが、従前の道路幅員が狭小で車両の離合も困難であり、線形不良区間もあることから、これらを解消し交通の円滑化を図ることを目的としている。



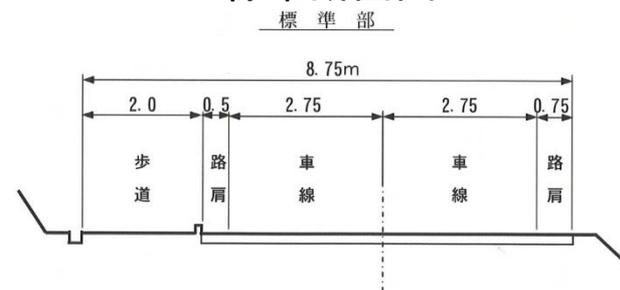
◆事業概要

計画延長等	L=0.45km
幅員	W=5.5(8.75)m
計画交通量(R22)	560台

◆事業経過

平成26年度	事業化
平成27年度	用地買収(未買収地有)
平成27年度	工事着手
令和3年度末時点	310m供用開始

標準断面図



事業の進捗率 42.2%(事業費ベース)
 用地進捗率 75.0%(面積ベース)
 令和4年度末現在

3. 事業の効果・必要性

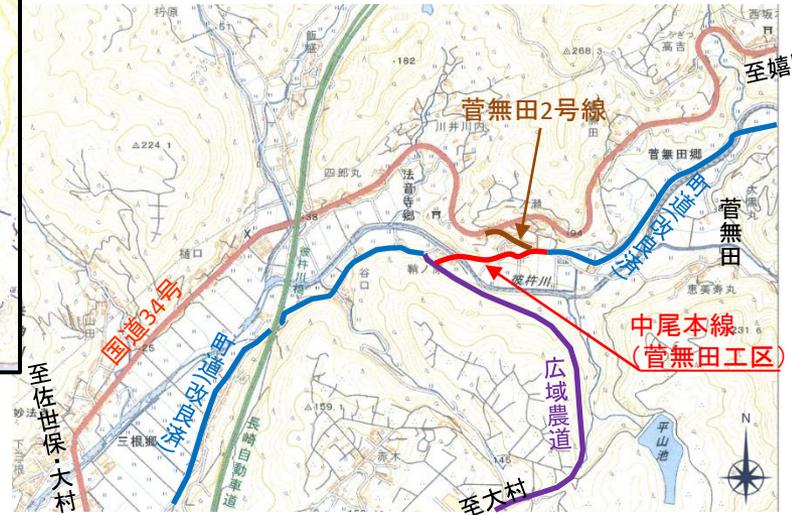
<中尾本線の現状、問題点>

■現状

彼杵中心部から菅無田、中尾、太ノ原地区方面へアクセスする当該道路は、町の主要産業であるお茶の生産や通勤、通院等に欠かせない主要道路である。工事区間前後の町道路線については拡幅改良が完了しており、地域の早期完成の要望が高い。

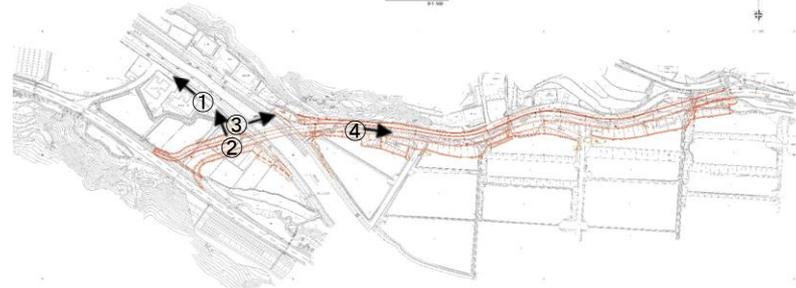
■橋梁新設

未改良区間には二級河川彼杵川に架かる二ノ瀬橋があるが、昭和39年に架設されており、現在は要補修の診断ではないが、今後老朽化は進行すると思われる。また道路と同様、離合困難であるため、改良に併せ現橋梁を廃止し、新橋の設置を予定している。



<整備効果>

■道路・橋梁の拡幅を実施することで、マイクロバス等の中型車両の離合も可能となり、視距が確保できなかった一部区間については見通しも改善される。併せて歩道設置を行うことで歩行者の安全性が確保される。



その他町道狭隘部(①~③写真)

①現道狭隘部



②離合待ち状況(手前白車両)



③現橋梁幅員狭小

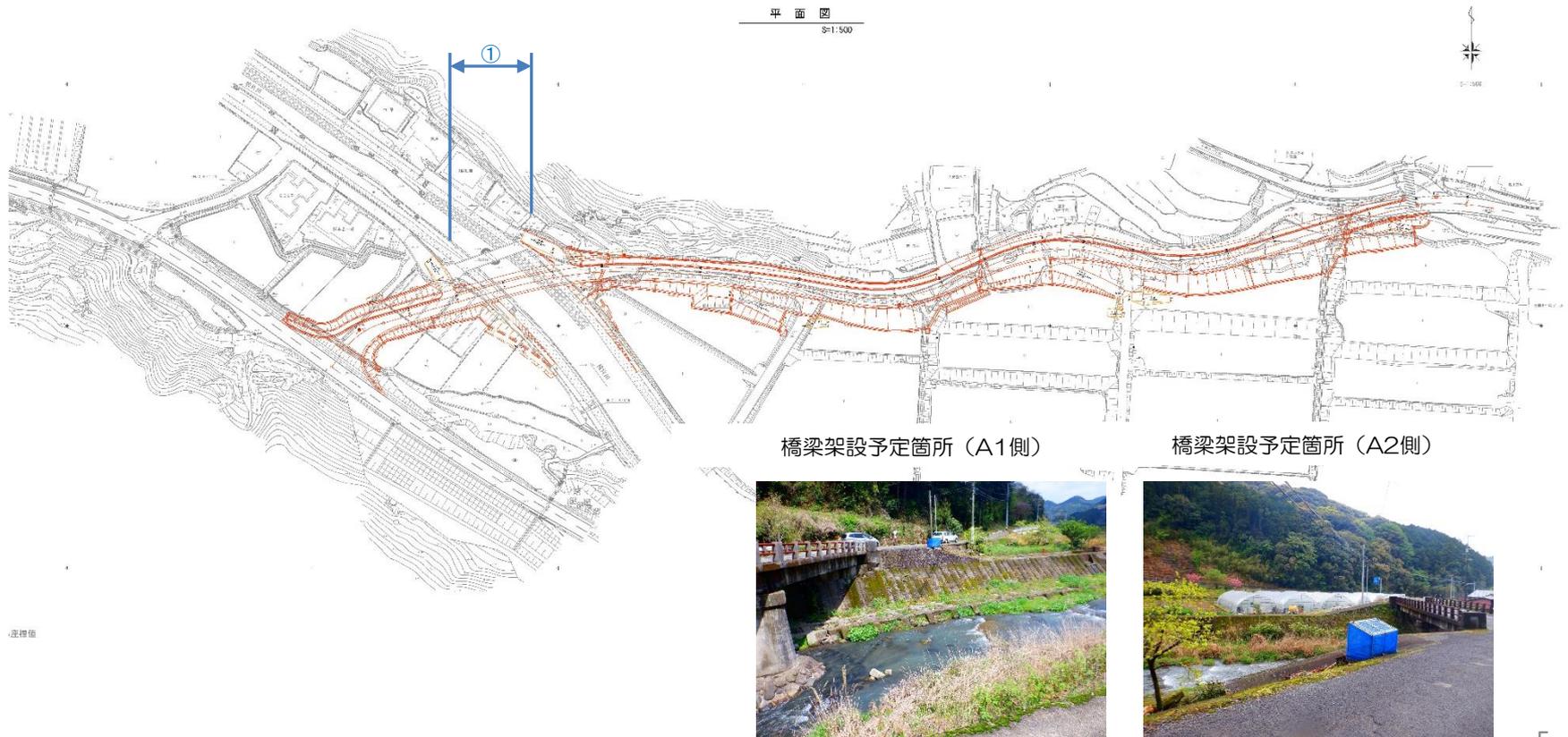


④改良済区間



4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

【事業費の増加】 2.5億円(新規) → 3.6億円(今回)		
事業費増の内容	増額	主な増額理由
①工法等の変更	約0.75億円	概略設計に対し、実施設計において仮設工の増額。又上部工形式の変更による事業費増。
②その他	約0.35億円	材料費・人件費、等の単価上昇、諸経费率上昇による事業費増
計	約1.10億円	



4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

【完了工期】 H30→R9

・用地買収交渉が難航し、道路線形の見直しや他の地権者との交渉等に時間を要したため。

	H26	H27	H28	H29	H30
測量・設計	■				
用地		■			
工事			■	■	■



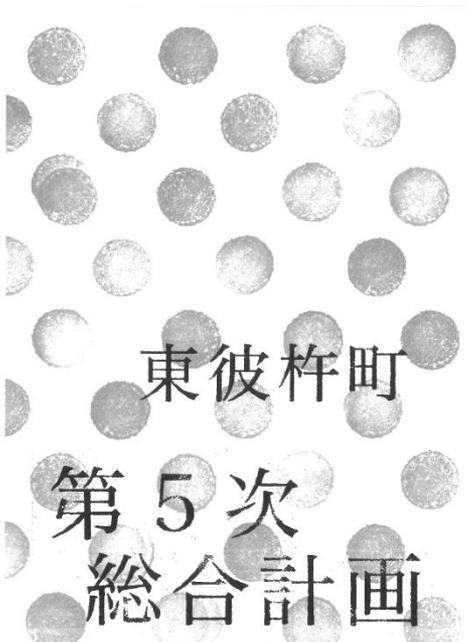
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
測量・設計	■	■	■											
用地		■	■	■	■	■	■	■	■	■				
工事			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

5. 上位計画への位置付け・関連事業の状況

・第5次東彼杵町総合計画(2014～2023)における位置付け

第5次総合計画は、新たな時代の流れや東彼杵町が抱える課題に対応した「まち」の実現を目指すため、町民が主体的に関わることができる仕組みをつくり、町で生活する一人ひとりが「住んでよかった」、「住み続けたい」と実感できるまちづくりに向け、その基本姿勢と具体的行動計画を示すものとして策定。

本事業は、総合計画の基本計画における基本方針25「地域の安全性、信頼性を確保する整備の推進」として位置付けられている



分野別体系図			
分野	政策	基本方針	
交流	住民主体の地域づくり	01 活力あるコミュニティ組織づくり	P 3 4
	交流、定住人口を拡大するまちづくり	44 住民が参画するしくみづくり	
		45 誰もが活躍できるまちづくり	
		10 定住の促進	
		02 雇用創出による定住の促進	
産業	農業の振興	12 魅力ある農業経営の支援	P 3 8
		20 担い手の継承	
	林業の振興	13 地産地消と食育の推進、耕作放棄地の抑制	
	次産業の振興	03 計画的な森林づくりの推進	
		04 つくり育てる漁業の推進	
	工業の振興	05 生産基盤づくりの推進	
	商業の振興	14 ものづくりに携わる人材育成の推進	
保健医療福祉	保健衛生計画	31 子育ての早期支援、予防接種の推進	P 4 4
		32 生活習慣病の予防の推進	
	高齢者福祉	33 歯の健康づくりの推進	
		34 福祉に関する意識の啓発	
		35 高齢者の生きがいづくり及び福祉サービスの充実	
環境保全環境整備	環境保全環境整備	36 介護予防等の推進	
		37 障がい者が安心して生活できる環境づくりの推進	
		38 安心して子育てのできる環境づくりの推進	
		17 豊かな自然環境の保全	P 4 9
		18 美しい景観のまちづくり	
		21 総合的かつ計画的な土地利用計画の推進	
		22 安定した住宅供給の充実	
		23 安全安心して快適なまちづくり	
		24 ゆとりある生活環境の創出	
		25 <u>地域の安全性、信頼性を確保する整備の推進</u>	
生活環境	生活環境	07 移動手段利便性の向上推進	
		08 オフロードシステム代替の検討	
		09 情報通信システムの強化推進	
		26 水辺環境の維持保全の推進	
		27 安心して使える水道水の供給の維持	P 5 5
		28 生活環境向上のための下水道事業の推進	
教育スポーツ文化	教育	16 こみの装置化、再生利用の推進	
		39 地域交通安全活動の強化	
		40 災害に強いまちづくりの推進	
		41 平和で安全なまちづくりの推進	
		49 地域で子どもを育てるための支援体制の充実	P 6 0
行財政	行財政	50 各種教育機関と家庭と地域が連携した教育の推進	
		42 生きがいのもてる生涯学習の推進	
		43 人間力を育む教育の推進	
	47 スポーツ振興計画	47 気軽にスポーツに親しめる環境づくり	
	文化振興計画	51 文化活動の推進と地域文化の継承	
	行政運営計画	29 町民サービスの向上となる行政運営の推進	P 6 5
	財政運営計画	30 効率的な財政運営の推進	

今を
未来へ
10年後も
『今のままでいい』と
いえるまちへ

6. 地元等の意向

道路整備要望の経緯

平成22年

・当時建設中であった広域農道が開通後、中尾本線へ通り抜ける車両の増大が予想されることで、離合困難な現道の拡幅、歩行者に配慮した歩道設置等が周辺6地区の区長より提出される。

平成23年度 概略設計の実施

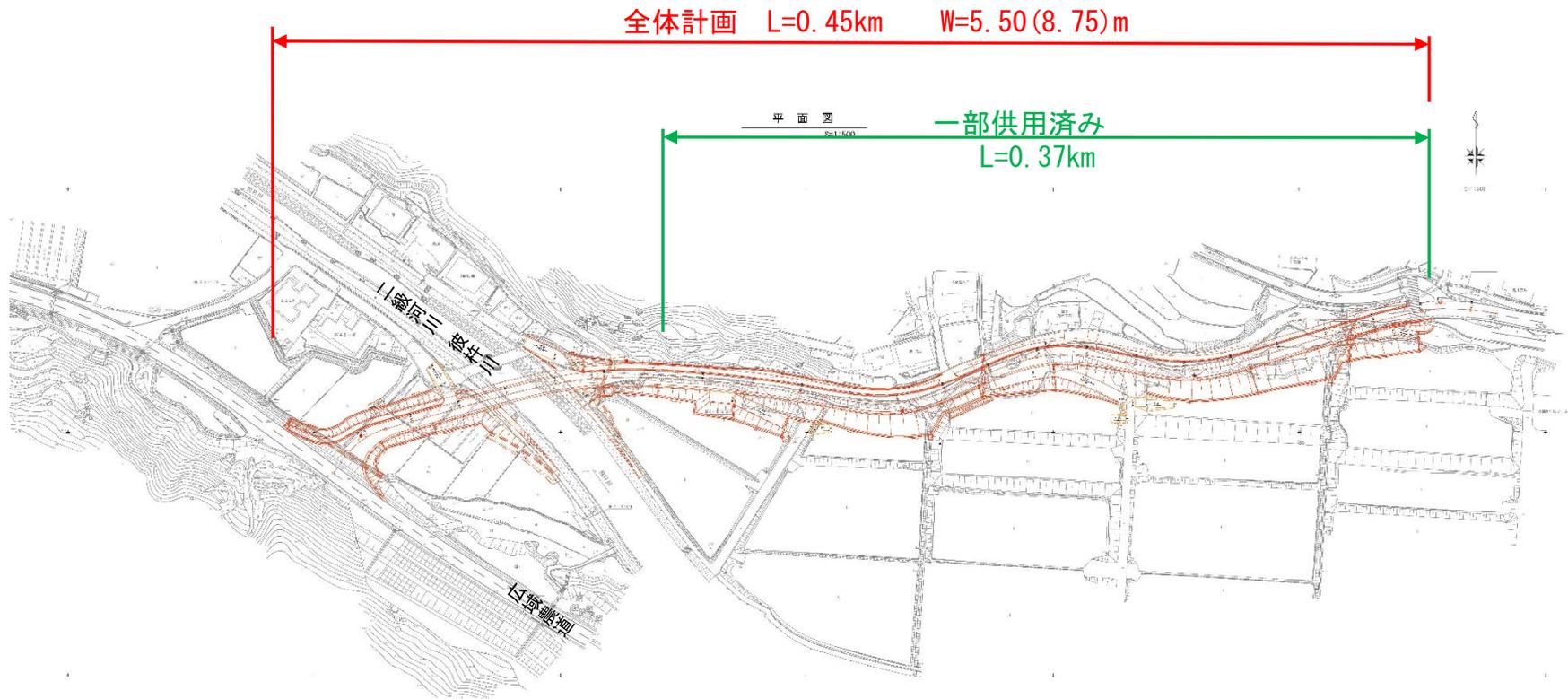
平成24年～平成25年

・中尾本線(菅無田工区)の事業早期着手について地元より要望

平成26年度 事業化決定

7. コスト縮減・代替案立案の可能性

◆これまで可能な限りコスト縮減を図ってきており、現在事業延長L=0.45kmのうち、令和3年度末時点で終点側L=0.37kmは供用を開始している。二級河川彼杵川を渡河する計画の橋梁詳細設計も完了しているため、事業効率化に大きく寄与する新たなコスト縮減や代替案の可能性はない。



8. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	当初評価 (平成23年度)	今回評価 (令和4年度)
残事業	—	2.03 = 2.44億円 / 1.20億円
全事業	1.29 = 3.23億円 / 2.50億円	1.18 = 4.27億円 / 3.61億円

[費用]

- ・道路整備に要する事業費(工事費、用地費、補償費)、道路維持管理に要する費用

[便益]

- ・走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益

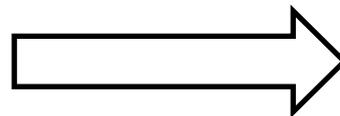
[マイナス要因]

- ・事業費の増(仮設工の増額、上部工形式の変更。労務費や資機材、諸経費等の価格上昇)
- ・工期の延長(用地取得遅延の工期延長)

9. 対応方針(原案)

- ◆ 本路線は本町の中心部と菅無田・中尾・太ノ原地区を結ぶ主要な幹線道路であり、町営バスの運行路線でもあるが、従前の道路幅員が狭小で車両の離合も困難であり、線形不良区間もあることから、これらを解消し交通の円滑化を図ることを目的としている。
- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで約42.2%[1.50億円/3.55億円](令和3年度末)であり、用地進捗率は75.0%となっている。
- ◆ 現在事業延長L=0.45kmのうち、令和3年度末時点で終点側L=0.37kmは一部供用を開始している。二級河川彼杵川を渡河する計画の橋梁詳細設計も完了しているため、事業効率化に大きく寄与する新たなコスト縮減や代替案の可能性はない。
- ◆ 事業費の増加はあるものの、費用対効果は十分に見込まれる。

対応方針
(原案)



継続